

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和8年2月号

青果物の販売促進の取組について

全国農業協同組合連合会千葉県本部
営農園芸部 園芸販売課
東京園芸販売センター長 池田 直人

ここ数年来続いている暑さの影響により、県内産地では青果物の夏場の生産・出荷を回避する動きが広がる中で、令和7年度の出荷は前年同様に低調な出荷状況が続いています。一方販売は、昨年の品薄高傾向から加工業務向けの野菜が国産から輸入にシフトする中で、販売が苦戦する場面が目立っています。

そのような中でJA全農ちばはJAと連携し、千葉県産青果物の売り場確保と適正な価格形成を消費者に理解を求める啓蒙活動として、市場や関係機関と連携した販売促進を実施しました。

1. 「秋冬野菜出陣式」「秋冬野菜の陣」開催

JA全農ちばは、千葉県・(公社)千葉県園芸協会との共催で、県知事や県本部運営委員会会長・副会長および園芸協会理事の皆様をお招きして、11月11日(火)大田市場にて「秋冬野菜の陣」を開催しました。

会場内には、千葉県の主要な品目が棚に並び、詰め掛けた大勢の買参人に野菜(人参、さつまいも)の入ったノベルティを配布しました。出席された熊谷俊人千葉県知事は、大消費地に近い千葉県の役割が高まっていることと、近年の高温・猛暑対策にも力を入れ、どんな気象環境でも安定的に野菜や農産物を提供できる体制を整えていると述べられました。また、JA全農ちばの松元善一会長は、コスト増加分を販売価格へ反映していかなければならず、国と連携のもとで『適正な価格形成』の実現に向け、市場関係者・消費者の皆様にご理解をいただけるよう取組を継続していく、と挨拶されました。

また、その1週間後の11月18日(火)には、豊洲市場にて主要JAの園芸担当部長に御参加をいただき「秋冬野菜の陣」を開催し、買参人に対し千葉野菜をPRしました。



2. 今年も関西圏で「千葉の旬菜お届け便」開催

12月5日(金)から7日(日)にかけて、JA、千葉県の代表者を参集し、JA全農青果センター(株)協力のもと、本年も関西圏の量販店で千葉県フェア「千葉の旬菜お届け便」を開催しました。

(株)万代をはじめ、オーケー(株)や(株)平和堂において同時開催を行い、主要店舗にはマネキンを配置し販路拡大を図りました。フェア開催当日には、店舗を

巡回し、売り場の状況把握や情報の共有を図りました。

今回のフェアでは万代で「にんじん味噌きんぴら」、オーケーで「大根の鬼おろし塩昆布(農家の無骨飯)」、平和堂で「大根の鬼おろしシラス飯(農家の無骨飯)」の試食も行いました。関西圏のお客様からは品質や鮮度・揃い等で好評を得ており、継続的な売り場づくりに手応えを感じました。

また、12月12日(金)から14日(日)にかけては、イオン関西エリア全店において千葉県フェアを開催し、関西圏において千葉の豊富な品揃えと鮮度の良い野菜をPRしました。



3. おわりに(課題と今後について)

本年度はこのほかにも、ハウス食品や千葉県と連携し、千葉県内量販店において食品メーカーとのコラボによるイベントフェアを実施したほか、当県本部で運営する公式Instagramにおいて青果物に関する情報発信を開始しました。

また、年明け1月から3月にかけては、昨年が遅れや不作で取り組むことができなかった千葉会会員市場との連携による一斉消費宣伝に取り組むほか、新たな優良量販店において販売促進活動を通じた販売棚の確保にも取り組んでまいります。

引き続き、産地の皆様の御協力と御理解を賜りますよう、お願いいたします。

「もしも」に備える産地BCPのススメ

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室 技師 佐藤 友音

近年、自然災害の激甚化や頻発化により、農業分野における災害リスクが増大しています。「災害発生時にも産地全体で生産活動を継続し、早期復旧を可能にするための計画」として、産地BCP（事業継続計画）の策定が重要です。

1. 産地BCPとは何か？

産地BCPとは、自然災害や緊急事態が発生した際に、産地全体で事業を継続・早期復旧するための行動計画です。農業分野のBCPには、個々の生産者が策定する「農業版BCP」と、一定のまとまりをもつ産地が策定する「産地BCP」があります。産地BCPでは、生産者や関係機関が協力し、災害時の役割分担や対応事項をあらかじめ定めておくことで、迅速な対応が可能となり、産地全体の被害軽減や信頼性の維持につながります。

2. 産地BCP策定ステップ

(1) 産地の現状把握と方針の明確化

まず、産地の現状を整理します。どのような作物をどれだけの面積で生産しているか、生産者数や関連施設など、産地の概要を把握することが出発点です。

その上で、BCP策定の目的と方針を明確にします。たとえば「災害時にも出荷をできるだけ早く再開し、産地の信用を守る」ことなど、産地として目指す姿を関係者間で共有します。

(2) 重要業務・リスク評価・対応策の検討

次に、災害発生時に最優先で継続すべき重要業務を選定し、目標復旧時間（例：出荷を5日以内に再開する）を設定します。

また、産地が直面する可能性のある災害（台風、豪雨、地震など）や、被害内容（ハウスの倒壊、浸水、機械の故障など）を洗い出し、それぞれに対してどのような対応策がとれるかを検討します。

そして、災害による影響が「ヒト・モノ・カネ・情報」のそれぞれにどのように及ぶかを考え、事前準備（資材の共同購入、緊急連絡網の整備など）、災害発生後の応急対応（被災者への資材供給や相互支援）など、具体的な取組を計画します。

最後に、JA、市町村、生産者、普及員など産地の関係者で役割分担を明確にし、全員で情報共有することで、産地全体が災害時にも一体となって速やかに復旧・継続できる体制を作ります。

3. 運営のポイント

BCPは策定して終わりではありません。産地の生産者や関係機関が集まり、計画を共有し、災害時の連携体制を確認する場を設けることが重要です。また、災害時に備えた訓練を実施することで、計画の実効性を高めることができます。

災害リスクは年々変化するため、策定した計画を実際に運用するためには、定期的な見直しが欠かせません。

4. 災害に強い園芸産地づくりに向けた取組

千葉県では、実際の災害対応力を高めるため、ハウスの組み立てや修理方法を学ぶ「園芸用パイプハウスの自力施工研修会」や、産地BCPの重要性や策定手順を学ぶ研修会の開催、マニュアルの作成など様々な取組を進めています。

これらの取組を通じて、産地全体の連携を強め、災害に強い園芸産地づくりを進めていきます。

産地BCPをもっと知りたい方はこちら（農水省HP）：
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/saigaitaisaku.html#sanchiBCP>





ニホンナシ開花予測システム（ウェブ版）の構築

千葉県農林総合研究センター
研究マネジメント室 研究員 青木 優作

当年の気温データと2週間気温予報から開花期を予測する「ナシ開花予測システム（ウェブ版）」を構築しました。「幸水」5地点（千葉市、印西市、市川市、市原市、木更津市）、「豊水」5地点（千葉市、四街道市、鎌ヶ谷市、八千代市、旭市）の開花予測情報が閲覧可能です。

1. はじめに

高品質なナシを安定生産するためには、開花後の受粉作業などの栽培管理を計画的に行う必要があります。しかし、近年の気候変動により、開花日は年により2週間程度の変動がある等、経験での予想が困難で、適切な栽培管理に支障が出ています。そこで、Excelマクロで提供していた「ニホンナシ開花予測システム」について、生産者がより手軽に開花予測の情報を閲覧できるように、スマートフォン等で閲覧可能な仕組みを構築しましたので、紹介します。

2. ナシ開花予測システム（ウェブ版）

本システムは県庁ホームページで公開しています（<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/system/nashikaikayosoku.html>）。まず、スマートフォン等の携帯端末で、ウェブブラウザ経由で開花予測システムにアクセスします。すると、図1のような画面が表示されます。画面上段では、利用しているデータについて説明し、中段以降で各地点の予測結果を表示しています。今回は3/9にアクセスした画面を示しています。この場合、表示される予測は、アクセスした前日3/8までのアメダスの気象データと、最新の2週間気温予報を用いた結果になります。

また、本システムは、「幸水」5地点（千葉市、印西市、市川市、市原市、木更津市）、「豊水」5地点（千葉市、四街道市、鎌ヶ谷市、八千代市、旭市）の自発休眠終了日、開花始め・開花盛り（満開日）・開花終りが閲覧できます。画面を下へスクロールすると、各地点、品種ごとの予測結果を確認することができます。

3. おわりに

今後も、ユーザーの意見を聴取しながら、閲覧可能な地域・項目を追加する等、多くの方々に使っていただけるよう改良・開発を進めていきます。



図1 ナシ開花予測システム（ウェブ版）の表示画面（左）とQRコード（右）



図2 開花予測結果を確認しながら生育状況を観察



千葉県いちご組合連合会県外視察研修会を開催しました

公益社団法人千葉県園芸協会
産地振興部 主任主事 石井 陸登

千葉県のいちご生産は、観光・直売、市場出荷と様々な形態があるのが特徴で、令和5年産出額は75億円で全国第9位です。県内のいちご生産者で構成される千葉県いちご組合連合会（以下「いちご連」）は、販売促進活動や生産者間の情報交換などの活動を行い、いちご栽培の振興を図っています。去る令和7年11月17日に視察研修会を開催しましたので、御報告します。

1. はじめに

近年、いちごの高設栽培に取り組む生産者が増えているなか、高品質ないちごを栽培するためには、高設栽培や環境制御の知識・技術への理解を深めることが求められています。県外の先進的な事例を視察し、県内のいちご生産強化に繋げるため、県外研修会を開催しました。本年度は、埼玉県「越谷いちごみらい園（越谷市）」「株式会社ヒロファーム（春日部市）」の視察を行いました。

○ 越谷いちごみらい園

2022年に開園した当園は、株式会社アグリスの関連会社であり、同社で開発されたいちごの高設栽培システムを導入しています。作業の効率化、イチゴの高品質化、収量増を実現した実践は場であり、敷地内にはいちご観光農園と集出荷施設が併設されています。通常より通路幅が広くなっており、車いすのお客様も利用しやすくしているなど、園内には多くの工夫がありお客様が利用しやすい環境が整えられていました。視察中、参加者からは高設栽培システムに関する様々な質問がされていました。



越谷いちごみらい園視察の様子

○ 株式会社ヒロファーム

日本野菜ソムリエ協会が開催した第1回いちご選手権にて「あまりん」で最高金賞を受賞した株式会社ヒロファームのほ場を視察しました。同社では、いちご栽培のコンサルティング業務を行っており環境データに基づく最適な環境で栽培し、生物農薬を利用するなど、安全安心で高品質ないちごが栽培されていました。



株式会社ヒロファーム視察の様子

2. おわりに

今回の視察は、当県内のいちご生産者にとっても参考となる点が多く、経営改善につながるものと期待されます。今後もこのような活動を通じて、いちご産地の発展に積極的に取り組んでまいります。

その他



県育成農作物の原種生産について

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部

種苗センター 主任技師 鈴木 悟・主任技師 高橋 和希

公益社団法人千葉県園芸協会種苗センターは、長生郡長生村に位置し、県の委託を受け農産物の原種生産を行っています。

生産品目はサツマイモ、イチゴ、ネギ、落花生、ヤマトイモ、サトイモ、ナシ、ビワ、植木類の9品目で、原種苗として千葉県内の生産者団体及び生産者に配付しています。主要品目の概要は以下のとおりです。

・サツマイモ

「ベニアズマ」「べにはるか」の主要な品種に加え、近年は新品種である「あまはづき」「ひめあずま」「ゆきこまち」の栽培も始まりました。千葉県農林総合研究センターでウィルス検定を行った原原種を親株として、網室内で増殖し、主にJA関係機関に配付しています。

・イチゴ

千葉県農林総合研究センターでウィルス検定を行った「ふさの香」「桜香」「千葉S05-3(紅香)」の3品種を親株として網室内で栽培し、ランナーから発生する小株をポットで受け、増殖しています。10月中旬に生産者及び生産者団体に配付しています。



イチゴのウィルスフリー温室

・ネギ

千葉県農林総合研究センターでウィルス検定を行った坊主知らずネギの「足長美人」「小金」「向小金」の苗を網室内で栽培し、10月に株分けを行い、翌春5月頃に生産者団体に配付しています。

・落花生

千葉県農林総合研究センター落花生研究室で増殖した県育成の落花生「千葉半立」「ナカテユタカ」「Qナッツ」「おおまさりネオ」「郷の香」の5品種を種子親として栽培し、収穫後乾燥させて機械による選別作業を行い、3月中旬に千葉県落花生採種組合を通じて採種農家へ配付しています。

・ヤマトイモ

扇状に生長する「ふさおうぎ」と棒状に生長する「千系53-16」の2品種を生産し、主に北総地域のJA及び生産者団体に3月下旬に配付しています。

・サトイモ

近年はサトイモ疫病が大流行したため、種芋の消毒や生育期間中の病害虫対策を徹底し栽培を行っています。品種は他種より丸く大玉になりやすい「ちば丸」で、5月頃に配付しています。



サトイモほ場

・ナシ

大玉品種の「なつひかり」「若光」は接ぎ穂の形で3月上旬頃配付しています。なお、「千葉K3号(秋満月)」の原種配付は令和7年度をもって終了しました。

・ビワ

台木用品種である「楠」を3年掛けて生産し、株元径が接ぎ木に適した太さになった株を生産者団体へ配付しています。

・植木

人気のある樹種の「ヒメタイサンボク」や「ミヤマビャクシン」等を栄養繁殖し、全てポット栽培苗として11月頃に生産者団体に配付しています。

今後とも、優良種苗を生産し、生産者の皆様へお届けします。

千葉県産いちご輸出の取組に係る成果報告会について

千葉県農林水産部販売輸出戦略課

令和7年度千葉県輸出モデルルート実証事業での「カンボジアへの千葉県産いちご輸出の取組」に係る成果報告会を開催します。事業に参加された関係者の皆さまや、いちごの輸出に関心のある方などの参加をお待ちしています。

▼日時 3月17日(火) 14:00～16:00

▼会場 千葉県文化会館 小ホール(千葉市中央区市場町11-2)

▼内容(予定)

- ・カンボジア向け県産いちごプロモーションの成果報告
- ・いちごを取り巻く輸出環境の最新のトレンド
- ・いちごの輸入規制のある国・地域の各規制への対応方法など

▼参加申込 下記QRコードに必要事項を入力の上、3月10日(火)までにお申込み願います。



▼問合せ先 千葉県農林水産部販売輸出戦略課 輸出支援室
TEL: 043-223-3086
メール: 3086hanbai@mz.pref.chiba.lg.jp



カンボジアにて千葉県産いちごの販売フェアを実施(令和7年2月)

※カンボジアタイ間の軍事衝突の影響により、本事業について中止又は内容を変更させていただきます場合があります。

催物結果

「環境にやさしい農業」の取組をPRしました

千葉県農林水産部環境農業推進課

県では、「ちばエコ農業」をはじめ、環境にやさしい農業を推進しており、取組の拡大に向けては、環境にやさしい農業に関する消費者の理解増進を図ることも重要だと考えています。そこで、昨年度に引き続き今年度も、「JAグループ千葉 県産農産物応援直売所キャンペーン」(主催: JAグループ千葉営農事業推進協議会及びJA千葉中央会)と連携し、直売所において「ちばエコ農業」をPRしました。

当日は、直売所を訪れたお客様に対し、「ちばエコ農業」を紹介するチラシの配布や「ちばエコ農産物」に関するクイズ企画を行いました。お客様からは、「これからも農業を続けるために必要なことだと思う」、「これからロゴマークを探してみたい」といった声があり、環境にやさしい農業への理解につながったものと考えています。今後も、様々な機会を捉え、環境にやさしい農業の取組をPRしていきます。



JA市原市農産物直売所「果彩菜ちはら台店」
「ちばエコ農産物」クイズ企画の様子



JA山武郡市「山武緑の風大網店」
ミニのぼり等を活用したPRの様子